

堺の人々の寄付により築造された木造洋式灯台

大／阪／の／建／築／まちあるき——「堺」

きゅうさかいどうだい
旧堺燈台



旧堺燈台の遠景



旧堺燈台の近景



解体工事前の燈台内部
平成15年(2003)堺市教育委員会社会教育課提供



戦前の大浜の様子

所在地： 堺市堺区大浜北町5丁・49
最寄駅： 南海本線 堺駅から西へ約1km、
徒歩約15分

◆内部非公開◆

建築概要

国指定史跡旧堺燈台

▶所有者 大阪府・堺市

▶大きさ 高さ12m

▶時代 明治10年(1877)

▶指定年月日 昭和47年7月12日

旧堺燈台は、明治10年9月(1877)に住民から集めた基金と堺県(現在の堺市)からの補助金で、港の改修とともに造られたわが国で最も古い洋式木造燈台のひとつである。室町時代から安土桃山時代にかけて、天然の良港であった堺港は海外貿易港として発展した。後に大和川の付け替えにより衰退したが、江戸の商人と堺の人々により築港・修理されたのが現在の堺旧港の原型である。江戸時代の堺港の燈台の変遷については、堺市立図書館所蔵の『堺市史史料』に収められている「堺港燈台起源沿革等取調上申書」(『堺市史』第6巻に「堺港燈台起源沿革書」として掲載)に記録が残されている。これによると堺港の燈台は、元禄2年(1689)に初めて市中の商人の寄金で建築されて以降、明治10年(1877)の洋式燈台まで7期にわたって、位置を変えながら新設されていったとされている。堺港は、特に宝永元年(1704)の大和川付替え以降、土砂の流入などにより修築をくりかえした。それにあわせて、燈台も規模を大きくしながら位置を変えていった。それは同時に堺の町の発展を表すものといえる。その南波止場に、明治10年(1877)堺の人々の寄付などにより高さ11.3mの六角錘形の木造洋式燈台が築造された。(イギリス人技師ビグルストンの設計)燈台はおよそ1世紀にわたって堺港に出入りする船の航海の安全を守ってきたが、周辺の埋め立てが進んだ昭和43年(1968)にその役割が終った。旧堺燈台の老朽化に伴い、平成13年度より平成19年3月まで、保存修理工事が行なわれた。解体工事が終了した段階で、建築当時の様子などがわかった。現在は、保存修理工事が終わり、往時の姿が甦り、周辺は龍女神像とともに新たな親水ゾーンとして親しまれている。旧堺燈台をモチーフにした公衆電話ボックスや時計台、旧堺燈台をデザインしたマンホールなどが、堺市内にある。(七堂元敏)